

## 【意見交換の概要】

《コーディネーター》 一般財団法人 みやぎん経済研究所 主任研究員  
杉山 智行 氏

### 《概要》

#### 1. 杉山主任研究員による論点整理（意見交換の前提となる認識共有）

- 地域活性化とは、地域社会の新たな目標を示すものであるとともに、地域発展の重要な手段の一つ。
- 目指すべき方向性としては、①経済活動の活発化、②地域組織、コミュニティ活動の活発化、③人の動きの活発化、④地域が活性化を実感できる取組み、活性化の質の向上、が求められる。
- 九州の全市町村に対して、「観光・地域づくり」について調査を行った際、宮崎県が「人口の増加」を重視しているのに対し、他県は「経済の活性化」を優先しており、ここに大きな温度差がある。また「地域産業の活性化・イノベーション」の部分が他県に比べて弱い。若者の定着という面では非常に大きな問題ではないか。
- 15歳～64歳までの生産年齢人口が減っていくのに対し、65歳以上の高齢者は増え続けていく。
- 雇用については、正規職員、パート職員ともに求人数、求職者数のミスマッチが大きくなってきている。
- 若者の流出は深刻な状況だが、大卒では初任給に大きな差がある一方で、高卒では各界の様々な工夫や努力によって差が縮まってきている。
- 宮崎県への移住者は飛躍的な伸びを示している。相対数では非常に少ないが、移住者が地域に及ぼす影響は大きいのではないかと。
- 宮崎県への観光客数について、インバウンドが飛躍的に伸びている一方で、相対的な数字を見ると圧倒的な勢いで福岡県に負けているほか、2015年に同じ位置にいた佐賀県とは大きな差がついている。
- スポーツキャンプの誘致などは大きな「強み」である一方、「弱み」としては産業や雇用が弱いなど、色々な面で人口減少の影響を受けている。
- コンパクトシティへの取組みについて、県内では都城市がネットワーク型コンパクトシティの取組みを進めているが、全体的にはまだまだのところ。



【意見交換の様相】

- 産業構造から「稼ぐ力」を検証したところ、宮崎県は全体的にあまり強くないが、農業については割と良いポジションにいる。製造業については東九州自動車道が整備されたことにより変わりつつあるのではないかと。商業については内需型であり、人口減少が進むと懸念が出てくる。観光について宿泊業は割と稼いでいる一方で、飲食サービスは内需型となっていることから、地元で観光客が消費してくれれば今後、変わってくる可能性がある。

## 2. 意見交換

### (1) 宮崎県の強み・弱みの再認識

- 県の誘致活動により複数の LCC が就航したことで利用客数が増えた一方、飛行機の小型化により宮崎で生産されたものが外に出でいかず、生産者が苦勞されている。また、国際線利用客の増加に伴う設備投資などの課題もある。
- 県内の企業は良いものを作ったり、商品開発に力を入れているが、発信力が弱い。観光地も良いところが沢山あるが、中々外に伝わっていない。
- 宮崎県は「陸の孤島」と称されるが、「陸の孤島」であるが故に守られているところもある。交通の不便さは弱みではあるが、宮崎県の独自性を築き上げるためにはかえって強みになるのではないか。
- 強みというのはこの逆境ではないかと思う。逆境を感じる事ができたところは強いと思う。だから今は逆にチャンスではないか。

### (2) 地域活性化への取組みと課題の抽出

- 人口減少が進む中で、拠点となる街づくり、村づくりといった社会基盤整備のほか、高速道路の整備や、宮崎空港における国際線の増便が急務ではないか。
- 宮崎県としては観光振興・移住支援といった、いわゆる旧来型の政策に関心があるが、若者が集まってくるためには地域産業の活性化・イノベーション、つまり未来型の政策が必要。この点については3年後、5年後を見据えて官民が共同して行う必要がある。
- 今後、人口が加速度的に減少していく中で、都市機能のある程度補う拠点とその周囲の生活をうまく組み合わせていくとともに、今まで気づいていなかった価値を磨いてそれを発信し、一定の外貨を稼ぎながら地域の中で経済を廻していくことが重要ではないか。

### (3) 若者の流出を防ぐには～ビジネスの可能性

- ここ1、2年で女性の起業意欲がとても高まっていると感じている。このような方々やインバウンドで宮崎に来られる方々の創業ニーズに合わせたコンテンツを提供・支援していくことで、そこに集う雇用もまた生まれるのではないか。
- 大手に負けないオンリーワンの商品を、東京でなく地方にいても海外展開まで含めて可能なのがIT業界。バングラデシュの若者を人材募集しているが、彼らは宮崎でも東京でもよく、日本というブランドに集まる。魅力的で世界に向かって展開していける企業を増やし、雇用や誘致を生み出していき、地方でも全く問題ないということをどんどん広めていきたい。

### (4) 官民の役割～官民双方に望むこと

- 労働集約型の業種は、人口減少の中でどう人材を確保していくかが重要。プロフェッショナルの技術を障害者の方に指導していくことで補っているが、官民の役割で期待することは、障害者の方が公共施設で働ける場を作っていく、福祉施設との連携によって活躍の場を広げていくような形で連携が出来れば良いと思う。
- 宮崎県には素晴らしいコンテンツがあるのに若者が地元で働けないというのはどうかと思う。県内外に魅力を伝えていくために民としても知恵を出していきたい。足元の人口減に対する取組みは官民間わず取り組んでいけるのではないか。
- 地域資源の評価を学術的な立場、研究の立場、教育の立場から行っていくことが重要。内発型のもを活性化させることにより地域の魅力をアップし、それをきちんと学術的にも評価し、インバ

ウンドと並行して、アウトバウンドで宮崎の良さを国内外に発信していくことは基調講演にもあったVFRにも効果が出てくるのではないかと。

- 社会全体がダウンサイジングしていくことが間違いない中で、社会全体をどのような形に持っていけばいいのか、その中でどう課題を設定していくかということが行政の役割ではないか。官民で意見交換しながら、情報や知恵を幅広く集めつつ、方向性を見出していくことが重要ではないか。
- 観光に関して、官民も含めエリア間の繋がりがもう少し欲しいと感じる。また、観光地間の連携も今以上に活性化させてほしい。更に、中国をはじめとしてキャッシュレス化が急激に進んでいるが、インバウンドが増加する中で、官民が一体となったキャッシュレスへの対応が必要ではないか。

#### (5) 地域活性化の今後の展開～「点から線へ」「線から面へ」

- 内需型で人口が減少し縮小社会を迎える中で、稼ぐ力が無ければ給料を上げることは不可能。時間が無い中でお先真っ暗というのが今の現状。そのような中、エリア全体で戦略的に戦うという概念が必要。時間がない中での勝負になる。
- 地方創生とは、森をつくる、山に木を植えることではないかと思う。金融機関は、若い人に投資をして創業を支援していくとともに、今ある企業をしっかりと中核企業として育てていく。そういったサイクルを廻し、点から線へ、線から面へと繋がることで、明るさが見えてくるのではないかと。
- 外から稼ぐ企業を育てて、その企業が県内の中小企業、小規模企業にちゃんと発注してもらいながら、地域内で経済を廻すことが重要なのではないかと。それによって地域全体の経済が浮揚していく、県民の所得が上がっていくということを目指すべき。それには官民の協働が必要。

#### (6) まとめ

- 都市のコンパクト化を進め、行政面のコストを下げて活性化を図っていくことが必須。若い人を引き留めるために、若い人のニーズに合わせてこの土地を変えていくよりも、この土地に魅力を感じる人に来てもらうような事をやっても良いのではないかと。
- 健康寿命が長命化する中で、マネジメントの知識や経験を持った首都圏の50代サラリーマン人材の地方拠点への転勤を積極的に勧め、兼職制限を大幅に緩めるなどして、都市をコンパクト化していく地域に住んでもらう。そこに投資をしてきれいになっていく地域を見て、地元の人にもメリットが感じられることで、協力してもらうようなことも考えられるのではないかと。
- 若者に対しては、宮崎県に住み、働くことの誇りといったものを、きちんと教育するというのも大事なのではないかと。
- 地域活性化は、宮崎県の強み・弱みを再認識する中で、イノベティブな観点で、エリアという視点も大事にしながら、官民が連携して、どうやって広がりを持たせていくか、個々の企業、団体、自治体が近視眼的ではなく超長期的な考え方で、取り組んでいかなければならない。その中で人口減少、少子高齢化に対応するようなコンパクトな街づくり、そこにもいろいろなビジネスが見出せるのではないかと。今回の「みやざき活性化フォーラム」を通じてそういったものが浮き彫りになったのではないかと。